凝縮された奥深さ！ 珠玉の一幕喜劇たち

チェーホフが愛した《ヴォードヴィル》

講師：齋藤陽一

10/18 [土]

14:00-15:30

受付開始・開場 13:30

入場無料 [要事前申込] 定員：30名
※定員になり次第受付終了

【お申込み】

まつもと市民芸術館チケットセンター
窓口・TEL：0263-33-2200 [10:00-18:00]

申込開始：2025年10月3日 [金] 10:00

会場：まつもと市民芸術館 M2 会議室

11月6日～9日に、まつもと市民芸術館では、舞台『チェーホフを待ちながら』を上演いたします。本作は、チェーホフ初期の一幕喜劇『熊』『煙草の害について』『結婚申込』『余儀なく悲劇役者』を、劇作家・演出家の土田英生が大胆に潤色し、オムニバス形式で立ち上げるコメディ作品です。

このたび、公演に先がけ、ロシア文学・演劇をご専門とされる齋藤陽一先生をお招きし、レクチャーの開催が決定しました！

『かもめ』『三人姉妹』『桜の園』などで知られるアントン・チェーホフ。彼がもっとも愛したといわれる演劇が、実は“ヴォードヴィル”と呼ばれる一幕喜劇でした。洒落な会話のなかに人間の真実が映し出され、笑いながらもふと身につまされる——短い戯曲の中に、その魅力が凝縮されています。

本レクチャーでは、“ヴォードヴィル”とは何か、そしてチェーホフ一幕喜劇の奥深さを、齋藤先生にわかりやすくお話いただきます。

チェーホフ作品の奥行きや魅力を味わうヒントに出会える学びのひとつ。この機会にぜひご参加ください！

講師プロフィール

齋藤陽一 [さいとう・よういち]

1988年に助手として、新潟大学人文学部に赴任。そこでは、毎年、学生とロシア語劇を上演する「伝統」があり、1年目にチェーホフの『桜の園』を抜粋して上演した。その後、学部改組によりロシア文学のみならず日本の演劇をも講ずるコースで定年まで勤め、現在はフェローという立場で研究、講義を続けている。『結婚申込』をロシア語で学生とともに読んだり、日本語で『煙草の害について』を上演したこともある。関連する論文として『結婚をモチーフとするチェーホフのヴォードヴィル—先行作品等との関係—』がある。

公演情報

まつもと市民芸術館プロデュース

『チェーホフを待ちながら』

作・演出：土田英生

出演：山内圭哉 千葉雅子 金替康博
新谷真弓 武居卓 みのすけ

11月6日(木) - 9日(日)

会場：まつもと市民芸術館 小ホール

チケット料金 [全席指定・税込]

一般：4,500円 U25：2,000円(枚数限定・前売のみ) 障がい者割引：4,000円

チケット
好評販売中！

芸術館レクチャーシリーズとは…

演劇やダンス、歌舞伎など、舞台をより楽しむための《学び》の時間。まつもと市民芸術館では、皆さまの想像力をさらに刺激し、様々な面から興味を持ってご観劇いただくための「レクチャーシリーズ」を開講いたします。当館の自主事業公演に関連するゲストをお招きし、皆様と共に学び、《知る》を楽しむ時間をお過ごしください。

お問合せ

まつもと市民芸術館チケットセンター(10:00~18:00)
TEL:0263-33-2200 FAX:0263-33-3830

主催：一般財団法人 松本市芸術文化振興財団
後援：松本市、松本市教育委員会
助成：一般財団法人地域創造